

海津市第2次環境基本計画



海津市第2次環境基本計画
発行：岐阜県海津市市民環境部環境課
発行年月：平成29年3月



平成29年3月

しかし、私たちが過剰に快適さを求める生活を続けていくと、この環境を将来の子どもたちに手渡すことはできなくなってしまいます。将来の子どもたちにこの豊かな自然を引き継ぐため、私たちは「豊かな自然と共に生き 未来へつなぐまち 海津」を将来像に、私たち一人ひとりが未来へつなげる行動をはじめます。

将来像：「豊かな自然と共に生き 未来へつなぐまち 海津」

基本施策

- 大気環境の保全……P20
- 水環境の保全……P20
- 土壌環境の保全……P20
- 騒音、振動の防止……P20
- 循環型社会の推進……P21
- 豊かな自然環境の保全……P21
- 森林環境の保全……P21
- 生物多様性の確保……P22
- 地球温暖化防止対策……P22

2026

Project
1

重点プロジェクト1
「自ら学び行動する
環境プロジェクト」

……P10



Project
2

重点プロジェクト2
「豊かな森と美しい川を
考えるプロジェクト」……P12

Project
3

重点プロジェクト3
「里山共生プロジェクト」……P14



Project
4

重点プロジェクト4
「公共交通を使って
地球温暖化防止プロジェクト」……P16



2017

協働で進める取り組み……P23

市内一斉美化運動、環境教育の推進
環境情報の共有
市民協働による環境保全運動
環境審議会での進捗管理



計画の目的

私たちのくらしは、森・里・川・海に代表される自然の恵み(生態系サービス)によって支えられています。

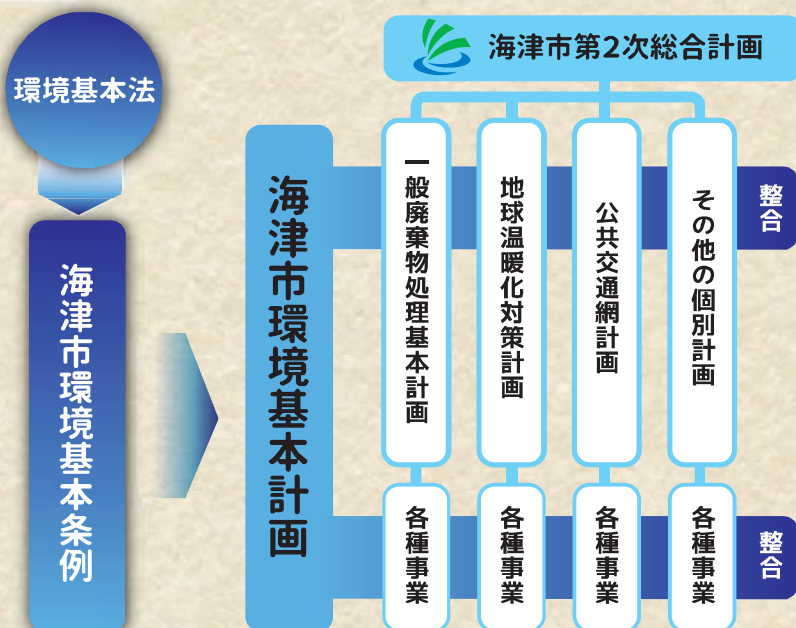
しかし、人口減少と高齢化が急激に進行するとともに、人と自然とのつながりが希薄になり、これまで行われてきたきめ細やかな管理や手入れが難しくなっています。

私たちは、良好な環境の恵みを受け健康で文化的な生活を営む権利を有している一方で、環境の負荷が少なく持続的な発展が可能な社会を構築し、人と自然が共生する社会を将来の世代に継承していく責務を担っています。

海津市環境基本計画は、海津市環境条例第8条に基づき、自然豊かで快適な環境の保全及び創出に関する施策を、総合的かつ計画的に推進することを目的としています。



計画の位置づけ



※本計画は、本市が目指す将来像「水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津」に基づき、海津市第2次総合計画に位置づけられている各部門の施策や個別の事業に環境という視点を加えるものです。今後、各種の個別計画や施策の立案及び実施にあたっては、環境基本計画との整合を図り、環境に及ぼす影響を総合的に検討するものとします。



計画の期間

計画の期間は、平成29年度(2017年度)～平成38年度(2026年度)の10年間です。



施策の体系

将来像の実現に向けて、「基本施策」及び「協働で進める取り組み」を実施するとともに、重点的に取り組む「4つのプロジェクト」を行います。





▲ 行基寺



▲ 千代保稲荷神社



国営木曽三川公園 ▲

海津市について

その1

岐阜県海津市

位置・地勢・面積

岐阜県の最南端に位置し、西部・南部を三重県に、東部を木曽川・長良川によって愛知県に隣接しています。

市の中央部を流れる揖斐川以東の地域は平地が広がり、以西は急峻な養老山地とその裾野に広がる扇状地・平地からなっています。一方、北部は、養老郡、安八郡に接し、東は羽島市に接しています。

人口 35,695人、世帯数 12,157世帯(平成29年1月1日現在)、東西方向は約13km、南北方向は約17kmであり、面積約112平方kmです。

地目別面積は、農用地(37%)と森林(26%)が多く、次いで河川・水路(16%)、宅地(10%)、道路(6%)、その他(5%)です。



重点プロジェクト

将来像の実現に向けて、「基本施策」及び「協働で進める取り組み」を実施するとともに、重点的に取り組む「4つのプロジェクト」を行います。





Project 1

自ら学び行動する 環境プロジェクト

自分たちの出しているごみを知ることで、ごみだけでなく環境について興味を持ち、自ら学び積極的に行動する人が1人でも多くなるように、エコドームから始める環境学習のプロジェクトを進めていきます。

エコドームの利用促進



- ・エコドームで利用できるサービスをPR
- ・エコドームを拠点にした環境学習の実施

エコドーム 利用者数



※環境学習なども含めた、
エコドームの総利用者数。

エコドームの 資源搬入量



※海津市創生総合戦略の
目標値

ごみを出さない環境教育



- ・食品ロスの削減
- ・親子で参加できる環境 学習の開催
- ・生ごみ資源化の講習会を開催
(コンポスト容器、ボカシ処理容器、
ダンボールコンポスト)
- ・利用しきれない堆肥の
活用方法(譲り合いの
仕組み)を検討

ボカシ処理容器 貸出数



※市が無料で提供しているボカシ
処理容器の年間貸出数

ごみ処理の現状を知ろう



- ・ごみ処理方法、費用の見える化
- ・処理原価を考慮したごみ袋の価格の検討
- ・地域のイベント、お祭りで
出たごみもリサイクル

家庭系ごみ 1人1日あたりの 排出量



※家庭から出る資源以外のごみを、
市民1人1日あたりに
換算した指標



Project 2

豊かな森と美しい川を考えるプロジェクト

海津市の伝統的な食文化である「もろこ寿司」。
しかし、外来種によって地元産のモロコは入手 困難になっています。
在来種を中心とした川の生態系を取り戻すプロジェクトを進めていきます。

水質の改善



- ・河川流量の確保
- ・富栄養化状況の改善
- ・生活排水処理の推進

生活排水処理率

現状値
平成 27 年度
(2015 年度)
65.7%

将来値
平成 38 年度
(2026 年度)
70%

※一般廃棄物処理基本計画の目標値

外来種対策



ブラックバス

- ・外来種のキャッチアンドリリース禁止(周知)
- ・ブルーギル、ブラックバスの駆除の推進
- ・ヌートリア、ジャンボタニシの駆除の推進

在来魚(モロコ・鮒)の水揚げ量

現状値
平成 27 年度
(2015 年度)

モロコ **78kg**
鮒 **2,788kg**

将来値
平成 38 年度
(2026 年度)

増加

川の環境教育



- ・外来魚駆除の釣り大会の推進
- ・用水路清掃の推進
- ・ビオトープ設置の推進

外来魚駆除の釣り大会の参加人数

現状値
平成 27 年度
(2015 年度)
207人

将来値
平成 38 年度
(2026 年度)
増加

Project 3

里山共生プロジェクト



動物の住む山と人の住む里の間に広がる「里山」。自然豊かな里山で人と動物がともに暮らしていくために、里山の環境を保全するプロジェクトを進めていきます。

山の生態系の把握と適正管理



木の皮を食べる鹿の食害



捕まえられたシカ

- ・健全で豊かな森林づくり
- ・出没地域の調査把握(シカ、イノシシ、サル)
- ・密度(推測値)に基づく有害駆除捕獲頭数(鳥獣保護管理計画)の設定

ニホンジカの密度

将来値
平成 38 年度
(2026 年度)
5 頭/km²



イノシシのヌタ場

※岐阜県の調査する
生息状況調査の数値

※体表に付いているダニなどの寄生虫や汚れを
落とすために泥を浴びる場所のこと。

農作物の保護



陽が射さない杉林の人工林



畑に設置された
防護柵

- ・人工林の間伐、雑草木の刈り払い
- ・耕作放棄地の解消
- ・防護柵等の設置

間伐累計面積

現状値
平成 27 年度
(2015 年度)
150 ha

将来値
平成 33 年度
(2021 年度)
225 ha

将来値
平成 38 年度
(2026 年度)
300 ha

※海津市創生総合戦略の目標値から算出



切りとられた雑木

地域で守る仕組みづくり



箱罾の設置

- ・鳥獣害対策の実施主体として地域協議会の活用
- ・ジビエ活用の推進
- ・有害駆除報奨金の検討
- ・狩猟者育成の推進

鳥獣害被害額

現状値
平成 27 年度
(2015 年度)
29,736 千円

将来値
平成 33 年度
(2021 年度)
28,844 千円

将来値
平成 38 年度
(2026 年度)
28,249 千円

※鳥獣害による農林業被害額

Project 4

公共交通を使って地球温暖化防止プロジェクト



養老鉄道やコミュニティバスなどの公共交通機関を利用することは、化石燃料の消費削減になり地球温暖化防止につながります。

パークアンドライド駐車場の検討や養老鉄道・名阪近鉄バスとコミュニティバスとの接続を強化することにより、自動車に過度に依存しないまちを目指します。



バスの利用促進

- ・パークアンドライド駐車場の検討



交通結節点の整備

- ・駅駐車場、駐輪場の整備
- ・コミュニティバスとの乗り継ぎ円滑化

コミュニティバス利用者数



※海津市公共交通網形成計画の目標指標
※現状値は平成27年10月～28年9月の利用者数

養老鉄道の利用促進

- ・利用促進イベントの開催
- ・パークアンドライド駐車場の検討



養老鉄道 石津駅前



美濃松山駅の駐輪場



サイクルトレイン

地域と協働の利用促進

- ・広報による周知
- ・利用促進の支援
- ・意見交換会、シンポジウムの検討

養老鉄道利用者数



※市内の駅における1日あたりの養老鉄道乗降者数
※海津市公共交通網形成計画の目標指標

海津市について

その2



自然について

東海地方の代表的河川である木曽川・長良川が東境を、揖斐川が中央部を流れ、市内には北端を流れる大樽川、内水排水路としての役割も持つ大江川、中江川、養老山地の水を集める津屋川、山除川が流れています。

これらの河川は、豊かな自然生態系が維持・保全され、住民の生活に密着し、やすらぎと潤いを与えているとともに、河川によってもたらされた肥沃な土壌に培われた豊かな田園地帯が広がっています。

また、西部には、標高500～800mの小高い山々が連なる養老山地があり、山麓では、みかん園や柿園が広がっています。

気候は、冬季に伊吹おろしと呼ばれる北西風が強いものの、伊勢湾などの海洋性気候の影響を受けて概して温暖な地域です。

基本施策 協働で進める取り組み



4つの重点プロジェクトを進めるにあたり、海津市が進める「基本施策」および、市民のみなさまと一緒に「協働で進める取り組み」を紹介します。



基本施策

大気環境の保全

野焼きや簡易焼却炉に対する啓発・指導を強化します。

また、微小粒子状物質(PM2.5)については、健康に影響を及ぼすおそれがあることから、ホームページなどで岐阜県の測定結果を紹介するなど、注意喚起を行います。



水環境の保全

公共用水域の水質保全のため、下水道の普及率及び接続率の向上と、下水道区域外にある汲み取りや単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進することにより、生活排水処理率の向上を図ります。

また、公共用水域などの水質検査を行い、検査結果は市のホームページで公開します。



循環型社会の推進

資源が循環される社会を築くためには、市民一人ひとりや事業者、行政などが一体となり、廃棄物の発生を抑制し、発生した廃棄物等を循環資源として最大限に活用し、3R「Reduce(リデュース)ごみを減らす、Reuse(リユース)再利用する、Recycle(リサイクル)資源化する」の取り組みを推進することが必要です。

本市の実施する事業については、『一般廃棄物処理基本計画』に基づき、3Rに「Reject(リジェクト)過剰包装拒否、Repair(リペア)修理」の2Rを加えた5Rを推進していきます。



土壌環境の保全

岐阜県などと連携して、地下水や土壌汚染の防止のために、有害物質を使用する事業場等に対する啓発を行います。

汚染が明らかになった場合は、県と協力し土壌汚染対策法に基づく措置、水質汚濁防止法に基づく周辺井戸水調査及び市民への周知などを行います。



騒音、振動の防止

道路交通騒音を自動車騒音常時監視マニュアルにより監視を行います。くい打ちやバックホウなどを使用する特定建設作業に伴う騒音・振動は、規制の遵守について指導を行います。



豊かな自然環境の保全

山・里・川の保全に努めるとともに、農林業被害や、食害による植生の衰退や生態系のかく乱など深刻な影響を及ぼしている野生鳥獣による被害の総合的な対策を、各種計画等に基づき推進します。



森林環境の保全

森林の多面的機能を持続的に発展させるため、多様な森作りを推進するとともに、自然環境の保全など森林の公益的機能の発揮及び森林の保全を確保するため、保安林制度・林地許可開発制度などの適正な運用を行います。

また、次代を担う子どもたちを、緑と親しみ自然を愛し、心豊かな人間に育成する活動を継続していきます。





基本施策

生物多様性の確保

生物多様性の保全において、海津市の実態を把握するとともに、関係団体や地域住民等と連携してハリヨやカスミサンショウウオなど希少種の保全などに取り組み、多様な動植物の保全を推進します。

また、水田や水路・ため池等の水と生態系のネットワーク保全のため、生物多様性の視点を取り入れた、水田や水路など農業生産基盤の整備や、土づくりと化学肥料・化学合成農薬の使用低減、有機農業の推進を行います。

また、オオキンケイギクやオオフサモなど、地域の自然環境に影響を与え生物多様性を脅かす、特定外来生物の積極的な除去を行います。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性



地球温暖化防止対策の推進

地球温暖化による影響を減らすために、一人ひとりが家庭や学校、職場など様々な場面で実践できる取り組みの浸透を図ります。

本市における事業については、『海津市地球温暖化対策実行計画』に基づき、温室効果ガスの排出量削減を進めていきます。



COOLBIZ

WARMBIZ



<https://nankosshare.env.go.jp/green/>

協働で進める取り組み



市内一斉美化運動

ごみを捨てられない美しい環境づくりを目的として、自治会協力のもと、毎年6月の第1日曜りと10月の第3日曜日に「市内一斉美化運動」を実施しています。

市民協働による環境保全活動

市民、環境保全団体及び事業者が主体的に行う環境保全活動に対し、場の提供、制度の活用、人材の派遣、情報発信など、必要に応じて複合的に支援を実施します。

環境教育の推進

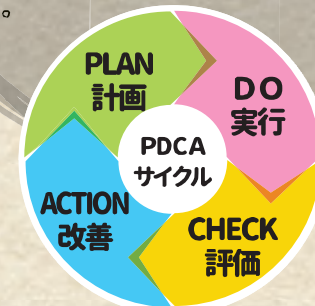
新しい学習指導要領などに基づき、発達の段階に応じた環境教育を行うとともに、各学校での特色ある取り組みを支援します。

環境審議会での進捗管理

計画の進捗状況について毎年環境審議会に報告し、PDCAサイクルを基本に計画の進捗管理を行います。また、進捗状況について市のホームページなどで公開します。

環境情報の共有

環境に関する情報を「市報かいつ」や市ホームページだけでなく、「かいつ、つーかい日記」やSNSなどを利用し、わかりやすく伝えていきます。





アンケート結果

環境に関するアンケート

【調査の目的】

環境基本計画の改定にあたり、市民の環境に対する意識を把握し、計画策定のための資料とすることを目的に実施しました。

【アンケートの概要】

調査期間：平成 28 年 6 月 17 日～30 日

調査対象：住民基本台帳から 16 歳以上 80 歳以下を無作為に抽出

発送数：2,000 通 回答数：860 通 回収率：43%

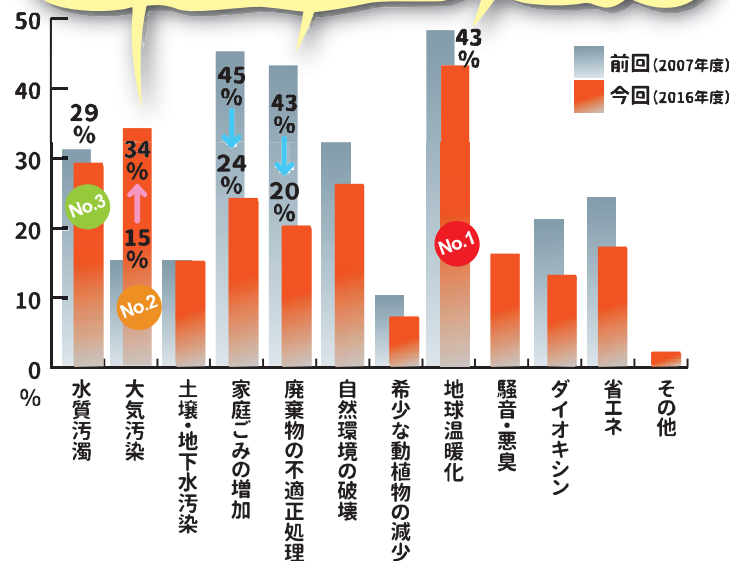
【調査結果】

9 年前(前計画策定時)から市民の環境に対する意識はどう変わったのか？

問1 あなたが関心を持っている環境問題は？

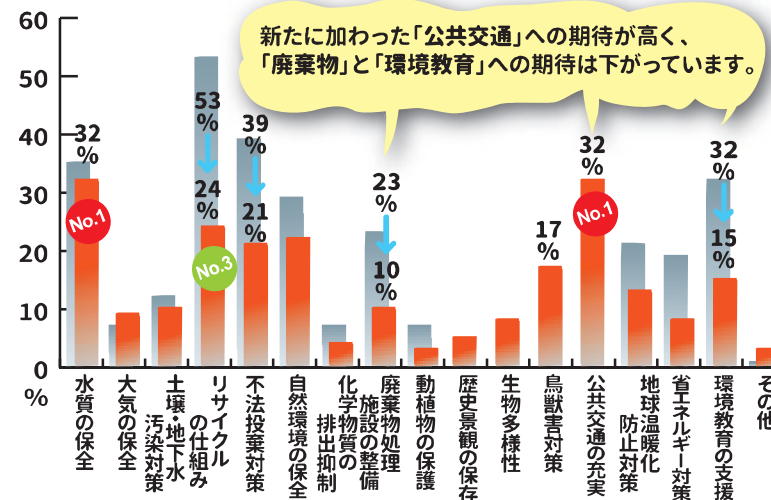
(3つまで選択)

「地球温暖化」への関心は変わらず高く、「廃棄物」に関する項目が前回よりも大幅に低くなっているのに対して、「大気汚染」の項目が高くなっています。



問2 今後環境の保全・保護の取り組みとして海津市に期待するものは何ですか？

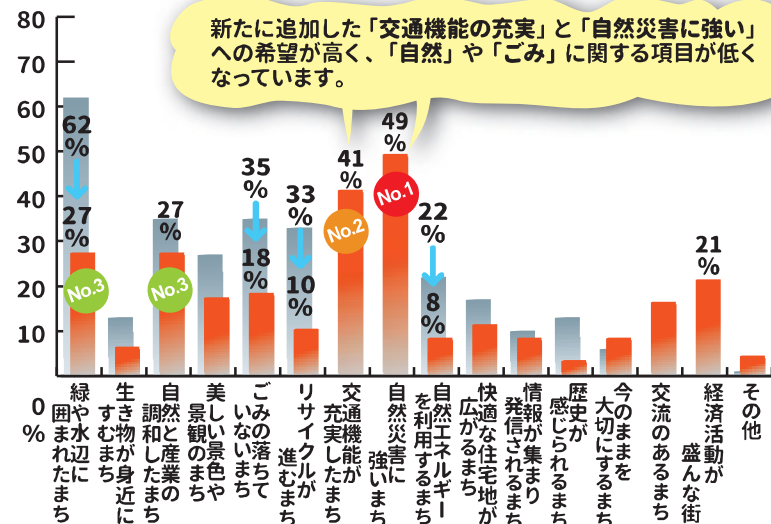
(3つまで選択)



新たに加わった「公共交通」への期待が高く、「廃棄物」と「環境教育」への期待は下がっています。

問3 今後、海津市にどのようなまちになってほしいですか？

(3つまで選択)



新たに追加した「交通機能の充実」と「自然災害に強い」への希望が高く、「自然」や「ごみ」に関する項目が低くなっています。



より深く
環境を
知る!

用語説明



オオキンケイギク(外来種)

【外来種】

国外や国内の他地域から人為的に導入され、本来の分布域を超えて生息する生物。導入先の生態系に著しい影響を与えるものを侵略的な外来種と呼びます。



【里山】

養老山地と市街地の中間に位置し、様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、集落を取り巻く二次林と人工林、農地、ため池、草原などで構成される地域です。



多種多様な生物が住む清流長良川

【生物多様性】

生きものの豊かな個性とつながりのこと。生物多様性は生命の豊かさを包括的に表した広い概念で、その保全は、食料や薬品などの生物資源のみならず、人間が生存していく上で不可欠の生存基盤としても重要です。



【ビオトープ】

本来は生物が互いにつながりを持って生息する空間を指しますが、この計画では空き地や学校などに造成する昆虫・魚・野鳥などの小動物の生息・生育環境を意識した環境空間を指しています。



提供:世界淡水魚園水族館 アクア・トリト ぎふ

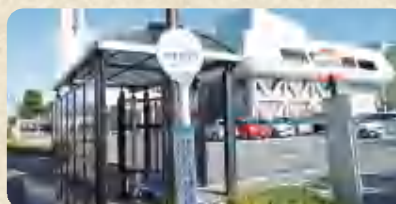
【カスミサンショウウオ】

環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定される体調 6～12 センチの両生類。岐阜県では揖斐川町と岐阜市でしか生息が確認されていませんでしたが、2016 年に海津市南濃町内で 32 年ぶりに発見されました。



【ジビエ】

フランス語で、シカ、イノシシ、野鳥など狩猟の対象になり食用とする野生鳥獣。写真はイノシシ肉を使った猪汁。



【パークアンドライド】

駅近くの駐車場に車を停めて電車利用をすることで、自動車の走行距離を減らすしくみ。



【PDCA サイクル】

計画を作成(Plan)し、その計画を組織的に実行(Do)、その結果を点検(Check)し、機能的でない点を是正(Action)したうえでさらに、元の計画に反映することで、環境の継続的な改善を図る仕組み。



ブラックバス(外来種)

【キャッチアンドリリース】

釣った魚を傷つけることなく再放流すること。生態系保全のため特定外来種であるブラックバスやブルーギルの再放流を条例で禁止している自治体もあります。



【生態系】

食物連鎖などの生物間の相互関係と、生物とそれを取り巻く環境の相互関係により、生命の循環を作り出しているシステム。とらえ方により 1 つの水槽の中や、1 つのため池の中の生物社会をひとつの生態系と呼ぶこともできるし、地球全体をひとつの生態系と考えることもできます。



【ハリヨ】

岐阜県の西濃地方と滋賀県のみに生息している希少魚で、昭和 56 年に南濃町の天然記念物に、平成 17 年の市町村合併により海津市天然記念物に指定されています。また、津屋川水系のハリヨ生育地は国内最大級のハリヨ生育地であることから、平成 24 年に「津屋川水系清水池ハリヨ生息地」として国の天然記念物に指定されています。



【SNS】

人と人とのつながりを促進・支援する、コミュニティ型の Web サイトおよびネットサービス。フェイスブックやツイッターなどが有名です。